

## 第12回けやきの杜こども作文コンクール 入賞者・金賞作品のご紹介

国分寺市内の小学校5・6年生のみなさんを対象に「国分寺のまちが、しょうがいのある人やお年寄り、私たちにとってくらしやすくなるには？」というテーマでの作文を募集したところ、過去最多となる497名からのご応募がありました。いずれも素晴らしい作文ばかりでしたが、厳正なる審査をさせていただき、8名の入賞作品を選ばせていただきました。今年もたくさんのご応募ありがとうございました。

以下、入賞者の皆様と、金賞の作品をご紹介します。

**金賞** 国分寺市立第六小学校 小笠原 悠 さん

**銀賞** 国分寺市立第三小学校 原田 野歩 さん

国分寺市立第五小学校 安田 朱里 さん

国分寺市立第五小学校 奈良 果怜 さん

国分寺市立第九小学校 北山 星 さん

**銅賞** 国分寺市立八小学校 柴崎 祐嘉 さん

国分寺市立九小学校 田中 あいら さん

国分寺市立十小学校 唐見 勇人 さん

# 第12回けやきの杜こども作文コンクール 金賞作品

## 「思いやりがあふれる町に」

国分寺市立第六小学校  
小笠原 悠

私達にとって暮らしやすい社会にするためには、どうしたらいいかを考えてみました。それは、一人一人が思いやりの心で助け合う温かい町にしていく事が大切だと思いました。

先日、私は電車に乗った時、とても心が温くなる出来事がありました。私が大きな荷物を持って立っていると、私の前に座っていたおばあさんが「大きな荷物を持っていて大変ね。持ってあげる。」と優しく声をかけてくれました。私は、申し訳なく断ったのですが、そっと私の荷物を自分のひざの上に乗せ、持って下さいました。私は国分寺駅に着いたので、おばあさんにお礼を言って電車を降りました。おばあさんの優しい心にふれて私の心も温くなり、また、私たちのやりとりを見ていた周りの人も笑顔で見守っていて、なんともいえない幸せな気持ちになりました。その事を通して相手を想う思いやりの行動の大切さを実感しました。

又、先日も素敵な場面に遭遇しました。目の不自由な人が電車から降り階段下の改札へむかって歩いていると、階段横にある上りエスカレーターに間違えて乗りそうになっていました。「危ない！！」と気付いたのですが、私はとっさの行動ができませんでした。するとその時、後ろを歩いていた人が、目の不自由な人の手をそっと持ち、優しく声をかけ、階段の方へ誘導してあげていました。そして、何もなかったように階段を降りていきました。私は、とても感動しました。

人を助ける事は、特別なことではなく、思いやりの心と少しの勇気があれば助けてあげられる事、助けてもらう事が日常の生活の中に沢山あふれている事に気がきました。そして、一人一人の心の中に相手を思う温かい心があれば、素敵な町に社会になっていくと思います。

私も思いやりの心で、お友達や家族周りの一人一人を大切にしていきたいです。